



美馬ロータリークラブ週報

7月15日 火曜日

Vol.398

例会出席者	23名 (会員数28名)	出席率	82.1%
メーキャップ	小田教仁(短期交換留学生受入れ6日分)	修正出席率	100%
ゲスト	ありません		

会長挨拶

ワールドカップ・2014 ブラジル大会が閉幕しました。日本は予選リーグを突破することができず、残念な結果でしたが、深夜から早朝の世界最高峰の試合をご覧になっていた方も多いと思います。開催国のブラジルもネイマール選手の怪我が痛かったですね。メッシ選手率いるアルゼンチンとドイツの決勝戦は、延長の末、ドイツが1-0で勝利し、優勝しました。ドイツは東西ドイツ統合後初のワールドカップ優勝。欧州勢は、南米開催大会の初制覇となり、3大会連続の栄冠だそうです。大会MVPとなったメッシ選手でしたが、やはり、個人の成績よりも、全体としての優勝を望んでいたのでしょうか。世界をリードしていると思える選手(メッシ選手・ネイマール選手)でも、挫折があり、その先にある高み(ワールドカップを自国に持ち帰る)に手を伸ばして、それでも、思うように掴むことができない、まさに「夢」があるのだなと感じました。

さて、私は長年剣道を習っておりまして、その剣道の世界で、大変すばらしい成績と経験を積まれております。徳島県警察剣道特別訓練員で、教師八段の免状を持っておられる、吉田茂生先生について知る機会がありましたので、少しお話ししたいと思います。この吉田先生は、私と同じ名前ということ、また私の息子が警察に勤めておりますので、親しみと敬意を持って存じ上げております。この吉田先生は、徳島の山間部、木頭村に生まれ(現・那賀町)小学校入学のころより、剣道を習い始め、中学高校、徳島県警に入ったあとも、さまざまな四国・全国の剣道大会で優勝するなど、輝かしい成績をおさめておられます。その長年の現役の活躍ののち、警察の中で、剣道特別訓練員(指導ができる)や教士の資格を得るまでになられました。しかし、その後も昨年八段に昇段するなど、努力を絶やすことなく、続けていらっしゃいます。

そんな吉田先生も、それまでの長い剣道の修練の時間は、すべて自分自身を磨くための時間だったと振り返っておられます。座右の銘である、「艱難(かんなん)、汝を玉にす」(人は困難や苦勞を乗り越えることによって、初めて立派な人間に成長するということ)を、実感しているということです。

皆さんも、苦しいこと、目の前の困難から逃れたいという気持ちを持った時、これが、自分自身を磨く修練だと捉えて、ぜひあきらめずに、粘り強く頑張ってくださいと思います。

幹事報告

- 到着書類 阿波池田RCより、2013-2014年度クラブ会報 と 2014-2015年度クラブ計画書
- 到着週報 鴨島中央RC(ハガキ)

委員会報告

- インターアクトクラブ 短期交換留学生について 小田会員

おかげさまでこの7/3までお預かりした、彼女ら二人の短期交換留学生は、今夜大阪で最後の夜をすごしていると思います。明日、関空から飛び発つそうです。今回、期間中、いろいろと皆様にご協力いただきましたことをここで感謝申し上げます。

- 奉仕プロジェクト委員会 川田会員

今日、例会終了後、職業奉仕・社会奉仕・新世代活動・インターアクトの小委員長、副委員長残って頂いて、委員会を行いたいと思います。よろしくお願ひいたします。

卓話（宇山裕士会員） 安部内閣の掲げる教育改革案について(小中一貫教育校創設)

偶然にも昨年度の最後の卓話と、本年度最初の卓話をさせていただきます。皆様、これも宿命と思って、どうかよろしくお付き合いください。先日に引き続き、本日も教育についてのお話をさせていただきたいと思っております。

安部内閣は教育に特に熱心であります。就任した昨年1月に、昭和23年に制定されて以来70年続いた6・3・3制を変えようという話をしております。そして、先日の7/3にその全容(原案)が発表されました。皆さんのお子さんやお孫さんにとって関係のあることですので、随時、私の方からお知らせしていきたいと思っております。

教育再生会議というところが、内閣に提案をしております。6・3・3制の改革はどういったことかと申しますと、中高一貫校というのが認可されて、県内にも三つ(県立の川島中学、高校など)あります。今回は、小学校と中学校を「小中教育一貫学校」という名前で、一つの学校にまとめましょうということです。9年間の学び舎を各自治体が好きなように、勝手に割り振りをしなさいというような話です。今のように6年制、中学3年制にしたのでは、中一ギャップと呼ばれる、中学一年生になったときに起こる、いじめや不登校の問題をなくそうと、小学校から中学校を一つの学校にして、各自治体に運用をしなさいというというのが、今回の6・3・3制の改革案です。

再来年2016年度の開校を目指しており、自治体はある程度の運用の幅を持たせてもらっていますので、校舎内を触ることも構わないということです。財政難にある自治体ほど、小学校の数を減らし、中学校と同数の小学校で済むということなら、飛びつくのではないかと考えられます。しかし、住民にとっては学校数の減少は、活気がなくなるため、反対意見も出ると思われまして、賛否両論出ることが予想されます。

2016年から、この問題視されている小学校から中学へ上がる際の、児童生徒の心の問題、校区外の生徒と出会う時に、いじめや不登校が起こるため、一貫教育にして9年制にすれば、不安を取り除くことができます。

担任がすべてを教える小学校から、授業科目ごとに教える先生が変わる中学校では、じっくりと先生との間に信頼関係が築けないというケースもあることから、小学校へ中学校の先生が授業を教えにいく、教科担任制という改革案も示されています。2016年春からのスタートを目指しているこの制度は、おそらく、政府はすぐに運用を目指すものと思われまして、今、4年・3年・2年制と5年と4年制ということで、2つの案が出ています。

また、保育所・幼稚園の最高学年である5歳児を、早めの義務教育の対象(年収360万円以下の家庭)として無料化しようという動きも出ています。安部内閣はこれも近々採用するのではないかと思います。

また、去年10月に発表された、当時共通一次(国公立のみ)からセンター試験(私立大学)というのに変更された、大学入試試験ですが、これも現在の小学校6年生以後の生徒を対象に、高校在学中に二度の「発達度テスト」を行い、一番良かった成績をもって、たとえばA~Dランクといった成績で、受験することができる大学はここですと、決めることが可能になります。年二回、二年間で四回の試験の中からベストの成績を持っていけるということで、そのテストから計った達成度や理解度と目指す大学が求める試験科目において、総合的に判断され合否が決まるといったことになっていくようです。また「基礎レベルテスト」という推薦入試、AO入試の際に使用できる、普段の自分の実力を一発勝負のペーパーテストでなく、見てもらえるという改革案になっています。

今の小学6年生以降のお子様やお孫さんを持つ皆様にお知らせして、このたびの教育改革案を周知して戴きたいと思っております。

ニコニコ

➤ 0円です

次回例会
プログラム

2014年7月22日(火) 18:30からレストラン西岡
卓話 遠藤公信さん(印刷業について)

欠席 林秀樹・田野寿一・杉原節子・藤田茂樹・三好亘

欠席の会員はメイクアップをお願いします。次回例会に欠席の会員は出席委員長までご連絡をお願いします。